

14 大学図書館に期待するもの

著者	寺門 臨太郎
内容記述	研修：令和元年度大学図書館職員長期研修 主催：筑波大学 期間：令和元年7月1日～7月12日 会場：筑波大学春日エリア情報メディアユニオン2 階メディアホール等
発行年	2019-07
URL	http://hdl.handle.net/2241/00157203

大学図書館に期待するもの

寺門 臨太郎

筑波大学 芸術系

●講義の構成

1. 美術史(学) Art History と美術の歴史 History of Art の方法
2. 美術史研究者がつくられる環境
3. 大学図書館に期待するもの
⇒ 「もの」としての資料の蓄積と発信

●キーワード

- ・「もの」 material and/or tangible object(s)
- ・至高性／主体性 sovereignty

(1) 「美術」という制度と「作品」

美術館という場で（制度／枠組みのなかで）目にする展示物

→ わたしたちの文化が恣意的に「**美術**(作品)／アート」と呼び、**価値づけたもの**

→ 元来「**美術**(作品)」は美的な愉しみのためにつくられたとはかぎらない

→ **後世の価値観**で「**美的**」な**機能**をあとづけし文化や素材のちがいを超えた **あらたな文脈**があたえられたものが「**美術**(作品)」(?)

1. 美術史(学) Art History と美術の歴史 History of Art の方法

(1) 「美術」という制度と「作品」

美術史 art history というディシプリン

絵画, 彫刻 (+ 建築, 工芸) = 「美術 art」
「造形芸術 die bildende Kunst」

→ 個々の「美術(作品)」を「歴史」という
時間軸にのせて体系化する研究

→ 「美術」をめぐる物語の批判と再構築
ストーリー化

→ 美術の歴史 History of Art として記述

(2) 「傑作」への投資

美術館という場で目にする「傑作」

「傑作」というイメージ ≠ 美術作品

→ 「傑作」と呼ばれるようになるよりも前の
「美術(作品)」は見ていない (?)

→ 『「傑作」というイメージ』を批判的に見る
B・クルーガー
《あなたは傑作の神威に投資している》(1982)

→ 「傑作たるもの」をめぐる
あらたなストーリーの再構成

(3) 「もの」としての美術作品の至高性, あるいは「もの」が主張する主体性

「もの」の至高性ないし主体性 sovereignty への意識

→ 「もの」 そのものの豊かさへの気づき

→ 「もの」そのものの持続可能なちからへの共感／批判

●美術作品は

「常に歴史家がそれについて問うているところのものにしたがって、それ独自の特殊な真理やメッセージを明らかにする」。

(ハンス・ベルティング, 元木幸一訳 『美術史の終焉?』
勁草書房 1991年 [原著: 1983; 1995²])

(4) 米国ウィリアムズ・カレッジの教育研究組織

1793年創設

マサチューセッツ州ウィリアムズタウン

全米リベラル・アーツ・カレッジでトップ・ランキング

→ 「ウィリアムズ・マフィア」

・輩出した美術史研究者は米国屈指

→ 豊かなコレクションをもつ大学附属美術館

・ Williams College Museum of Art

徒歩圏に Clark Art Institute

(4) 米国ウィリアムズ・カレッジの教育研究組織

Williams College Museum of Art

- ・ 美術史専攻の教員， 院生， 学部生のほか
隣接諸領域の教員や学生が研究・教育に利用
- ・ 「もの」 に即した研究方法の習得
- ・ 「もの」 としての美術作品の熟覧方法の獲得
- ・ 所蔵作品・資料を活用した展示実習
 - 「もの」 を使った美術史 Art History の実践
 - 「もの」 を使った美術の歴史 History of Artの
ストーリー化

(4) 米国ウィリアムズ・カレッジの教育研究組織

Sterling and Francine Clark Art Institute

- ・ 中世末期から近代のヨーロッパおよびアメリカ美術
- ・ 年間入館者およそ20万人
- ・ 蔵書数豊かな図書室（1962年創設）＝275,000冊以上
- ・ 閲覧室にはウィリアムズ・カレッジの院生専用机
- ・ 国内外からのvisiting scholarのための助成金制度

2. 美術史研究者がつくられる環境

(1) ふたつの美術史

美術史 vs 美術史 = 大学 vs 美術館
(組織 [職場] 環境のちがいによる対立)

Charles W. Haxthausen (ed.), *The Two Art Histories: The Museum and the University*, Williamstown (Mass.): Sterling and Francine Clark Art Institute, 2002.

@大学……専らブッキッシュな美術史研究

@美術館……常に「もの」に寄りそう美術史の実践

2. 美術史研究者がつくられる環境

(1) ふたつの美術史

美術史 vs 美術史 = 大学 vs 美術館
(組織 [職場] 環境のちがいによる対立)

寺門臨太郎・赤間和美 (編)

『シンポジウム「ミュージアムとしての大学キャンパス」』
筑波大学芸術系・五十殿利治 [科研報告書], 2013年.

@大学……専らブッキッシュな美術史研究

@美術館……常に「もの」に寄りそう美術史の実践

2. 美術史研究者がつくられる環境

(2) 愛知芸術文化センター

1992年開館の複合施設＝美術館＋劇場＋図書館

●愛知県美術館

- ・ 1955年開館の前身館による玉石混淆の収集を継承
- ・ 1990年代の日本で他に類をみない予算規模

●愛知県文化情報センター・アトライブラリー

- ・ 美術，音楽，演劇の専門図書館
- ・ パリの美術商旧蔵の図書資料
「タリカ・コレクション」22,000余冊
→ 質量ともに国内最高水準のリソース

3. 大学図書館に期待するもの

(1) 知のショールームとしての大学ミュージアム

mouseion……ムーサイ mousai の神殿

- ・ギリシア各地に建設
- ・最も有名であったのは在アレクサンドリア

●プトレマイオス父子による学芸の振興
→ 王宮内に**ムーセイオン mouseion** を設置

→ 80万冊超の蔵書を誇る**図書館**
天文台, 解剖室, 動物園, 植物園, 宿泊施設

⇒ 展示機能なし

3. 大学図書館に期待するもの

(1) 知のショールームとしての大学ミュージアム

galleria

- ・ルネサンス期の西ヨーロッパ

古代遺物発掘ブーム

→ 美的鑑賞という行為／制度の確立

新興都市商人による陳列回廊 galleria の開設
[フィレンツェのメディチ家など]

3. 大学図書館に期待するもの

(1) 知のショールームとしての大学ミュージアム

cabinet, wunderkammer, kunstkammer

- ・ 大航海時代から植民地時代

非西洋世界へのまなざし

- 情報と「もの（珍品 curiosity）」への熱狂
- 「世界の縮図」としてのコレクション
- power の誇示

- ・ 動植物や鉱物の収集, 分類, 体系化

- 博物学 naturalis historia の本格的成立と発展
- 近代的 museum の制度基盤へ

3. 大学図書館に期待するもの

(2) オーソライズされたミュージアム組織をもたない大学の知

- ・ 国立の総合大学で唯一，大学ミュージアムなし
- ・ 国立の総合大学で唯一，芸術（art & design）に特化した研究教育組織と専門図書館あり

→ 独自の知のありよう

本来的な「自由学芸 liberal arts」のありよう
いわゆる「論文」とは異なる仕方での研究成果発信

→ 「美術(作品)」の至高性ないし主体性を
活かした知のショールーム化

3. 大学図書館に期待するもの

(3) (机上の) M L A 連携議論

- ・ 学外の学術情報の収集から
学内の学術情報の蓄積と発信へ
- ・ 法による規定の脆弱さ？
→ 日本の大学図書館は
設置主体としての大学の一個の傘下組織か
- ・ 「デジタル」アーカイブの非アーカイブ性
- ・ 「**もの**」(図書, 古書籍, 手稿本, 写本等) としての資料の必要性
→ デジタル資料 過信への警鐘
(あるいはデジタル化された資料)

3. 大学図書館に期待するもの

(3) (机上の) M L A 連携議論

植村八潮

『電子出版の構図：実体のない書物の行方』

2010年 印刷学会出版部

フェルナンド・バエス

八重樫克彦、八重樫由貴子訳

『書物の破壊の世界史：シュメールの粘土板から
デジタル時代まで』

2019年 紀伊國屋書店

3. 大学図書館に期待するもの

(4) 筑波大学体芸図書館で「もの」と図書館の至高性 あるいは主体性を問う

●専門図書館の強みを活かした情報の蓄積と発信

にもかかわらず

雑誌購入費（各研究組織への運営費等交付金で定期購読）の
削減につぐ削減

→ 作品購入費や展覧会開催経費等のない
地方美術館の実績を下回る購読タイトル数

→ 学術資源／資料の枯渇

→ 研究力／教育力の低下に直結

3. 大学図書館に期待するもの

(4) 筑波大学体芸図書館で「もの」と図書館の至高性 あるいは主体性を問う

●専門図書館の強みを活かした情報の蓄積と発信

- ・ラーニングコモンズの環境整備
「ユーリカ」
芸術専門学群（学士課程）や大学院博士前・後期課程の
学生によるインスタレーション
- ・知がうまれる環境を象徴する「もの」の展示
「もの」の至高性や主体性に期待する学術資料
としての美術作品の公開

3. 大学図書館に期待するもの

(4) 筑波大学体芸図書館で「もの」と図書館の至高性 あるいは主体性を問う

●専門図書館の強みを活かした情報の蓄積と発信

- ・ラーニングコモンズの環境整備
「ユーリカ」
芸術専門学群（学士課程）や大学院博士前・後期課程の
学生によるインスタレーション
- ・知がうまれる環境を象徴する「もの」の展示
「もの」の至高性や主体性に期待する学術資料
としての美術作品の公開
- ・ポスター・コレクション（データベース2014年で停止中？）と
蔵書(図録)をリンクさせたテーマ展示